

枝

五年

筆順
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧

木 枝 枝
えだ

成り立ち



「二つの物から、たくさんの方が分かれる」という意味の「支（5年726）」と、「木」とを組み合わせて作った字です。

「二つの木のみきから、たくさんに分かれた「木のえだ」を表した字です。

使い方

▽物事の、「どうでもよいようなつまらないもの」のことを「枝葉末節」と言いますが、枝葉が無かったら、木は枯れてしまいます。枝葉も、みきや根と同じように無くてはならない大切なものだと思います。

▽七夕には、竹の小枝にたんざくや折り紙を糸で結んで下げます。

熟語例

▽枝葉（枝や葉。枝や葉はたくさんあって、一つや二つ無くなったところで、何のさしつかえもないということとで、「どうでもよい、つまらないもの」という意味に使われます。）

▽枝葉末節（末は「木ずえ。節は「ふし」。「どうでもよいもの」「つまらないもの」という意味の物事を言うのによく使うことばです。）

▽小枝（小さな枝）

▽枝道（本道から分かれた道のこと。横道。話の本題からはずれた話の意味に使われます。例話が枝道にそればかりいて、一向に進まない。）

▽連枝（高貴な人の兄弟のことを言います。）

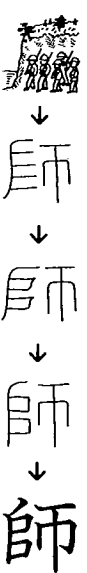
師

五年

筆順
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧

イ 戸 自 師
フン オン シ

成り立ち



崖の形を表した「自」と、「シ」という音を表した「師」とを組み合わせて作った字です。

軍隊は、崖を利用して陣を取ります。軍隊が陣を取る「崖」の形を表した「自」が「軍隊」の意味を表し、「師」は「シ」という発音を表しています。意味は関係ありません。

「隊（4年574）」という字も、「卩」が崖を表していて、だから「隊」と「自」とはどちらもタイで、意味もまた同じです。

「軍師（初めは「軍隊」という意味でしたが、後に、「軍の作戦を立てる人」という意味になりました）」の使い方から、「教える人（教師）」という意味に使われるようになりました。

五年

七二八

使い方

▽昔の人は、「三尺さがって師の影をふまず」と言いました。「恩師の影さえもふまない」ように気を使った昔の人が、今の世の師弟関係を見たら、どんなにおどろくことでしょう。

熟語例

▽師団（軍隊の集団の名称）

▽恩師（恩のある師。教えを受けたことがある先生のこと。）

▽師弟（先生と生徒。昔は生徒のことを「弟子」と言いました。）

▽師匠（匠は、口の中に斧のある形。大工の意味ですが、芸能や技芸の分野の大家のこと。学問、芸能、技芸などを教える先生のこと。）

▽師範（模範の意味のことばですが、武道や技芸の先生の意味に使います。）

▽法師（仏法を教え広めるお坊さんのこと。）

▽牧師（キリスト教を教え広める教会の先生。昔、中国で、地方を治める役目を「牧」と言いました。牧は人々を教え導く役目の名前です。）

五年

七二九